

千葉県最初の登録博物館

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第 0 8 7 号
名称（型式等）	野田市郷土博物館
所在地	野田市野田 370-8
設立（竣工）年	昭和 34（1959）年 4 月 10 日 開館

選定理由

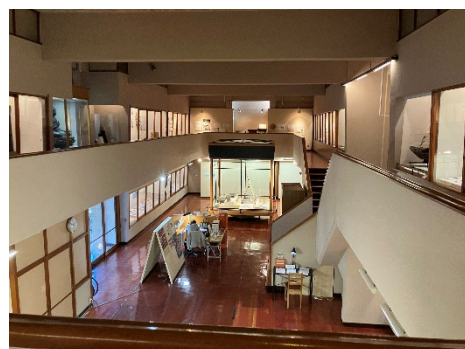
野田市郷土博物館は千葉県で最初に博物館法で規定される要件を満たした登録博物館（昭和 35 年 6 月 1 日登録）です。竣工は昭和 34（1959）年、全国的にも博物館や美術館に類似する施設が珍しかった時代でした。早くから市として博物館をつくろうという動きが生じたことの背景には、市民の文化活動がもつ文化的風土からと思われます。また、醤油醸造業で栄えた町の歴史があり、さらに野田の文化をリードする役を担った市民と、それを取りまく人々の先見と熱意があつて、博物館は最初の構想から約 10 年の時を経て建設に至っています。

設計者は京都タワーや日本武道館の建築家として知られる山田守です。300 余りの作品を手掛け、野田市郷土博物館は山田の唯一の博物館建築です。外観は正倉院の校倉造をイメージし、横長で左右対称の均整のとれた建物です。銅板葺（どうばんぶき）の屋根に飛び出る小さな 3 つの三角屋根や等間隔で並ぶ窓の格子などがアクセントになっています。鉄筋コンクリート造の二階建て、玄関は正面中央にあります。床上の外壁は塗料の中に細かい石を混ぜたリシン仕上げに横目地を入れ、プレキャストコンクリートの縦格子（たてごうし）をはめた横長の開口部を開けるなど、水平を意識した意匠をとっています。内部は自然光を間接的に取込むなど環境設計も秀逸で、特に気遣いがなされているのは採光の面です。内部上部には外光を取り入れるための網入りガラスの天窓が設けられ、この天窓から入る光は一度対面する白モルタルの斜面にあたり、屈折反射してケース全体を明るくし、直射によって観覧の障害とならないよう考慮されています。また、この天窓は通常の展示鑑賞では鑑賞者からは見えない位置（死角）に設けられているのも、計算されたうえでのことと思われます。さらに興味深いのが、展示ケース前面のガラスケースが地表面に垂直でなく上部が観覧者の側に若干傾いて作られており、反射による見えづらさを改善するものと考えられています。

同博物館は国内有数の醤油関係コレクションを始め、野田の歴史や文化に関する資料の収集、整理保管、調査研究、展示、教育普及活動に努められています。建物は令和 3（2021）年 2 月 26 日に国登録有形文化財に指定されています。



野田市郷土博物館外観



野田市郷土博物館展示室

協力：野田市郷土博物館

参考文献：平成 21 年度開館 50 周年記念特別展「建築家山田守と野田市郷土博物館」展示解説図録